

[事業報告]

TOEIC[®] IP 実施報告

池田 容子

山陽小野田市立山口東京理科大学 共通教育センター

TOEIC[®] IP Operation Report

Yoko IKEDA

Center for Liberal Arts and Sciences, Tokyo University of Science, Yamaguchi

要 約

本事業報告では、2005年から2017年に至るまで、学内で実施した TOEIC[®] Listening & Reading Institutional Program (以下、TOEIC IP と示す) の受験者数・平均点等の推移を眺める。併せて、本学公立化前・後のデータ比較も示す。微小な変化ではあるが、現時点において、テスト結果は好転していていることが認められる。

2010年頃から、社会での TOEIC の受け止め方が変わってきた。TOEIC の得点を社員採用・昇進の基準の 1 つとしている企業や、入試の際に TOEIC の得点を採用する大学院が多くなった。それに伴い、本学における学生の意識も徐々に変わってきていると考えられる。将来の必要に備えるため、或いは、自身の英語力チェックのために、TOEIC IP にチャレンジする学生が増加しているようである。以前は、受験希望者を募集しても、TOEIC IP 実施可能人数に達せず、実施できなかったこともある。現在は、毎回、受験者を一定数確保することができ、コンスタントに試験を実施している。また、以前に比べると平均点が上昇傾向を示している。

キーワード：受験者数増加, 平均点上昇, 公立化前・後

key words : increasing number of examinees, rise in the average mark, before and after our university became a public university

1. 実施形態

受験希望者を募り、学内では TOEIC IP を年 3 回実施している。英語等の授業時を利用してのアナウンスや、掲示板を利用して実施告知を行っている。学科・学年を問わず、どの学生でも受験可能であるように、毎回週末に実施日を設定している。実施日は、大学で独自に設定することができる。ただし、TOEIC を運営する一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会（以下、TOEIC 協会と示す）へ、10 営業日（土・日・祝祭日は営業していない）前までに、実施予定日を知らせる必要がある。

学生の受験は強制ではない。休日を利用しての実施であり、しかも受験料が ¥4,155 と高額であるため、受験する者は概ね意識が高い学生であると言える。

試験はマークシート方式で、先ず 45 分間（問題によっては 46 分間の場合もある）listening 問題に臨み、その直後に 75 分間の reading 問題が続く。listening の際は、試験室前方に置いた CD デッキから音声を流す。試験開始前には、受験生に試験上の注意を与えたとともに、CD の音量等をチェックする。試験の実施は、TOEIC 協会によって定められたマニュアルに沿って進行する。

試験開始後は、約 2 時間、膨大な量の問題を解く。CD から流れるアナウンスや、問題文は全て英語である。何も対策や準備を行わず、初めて受験する学生は、ただ戸惑うだけの時間を過ごすことになる可能性が高い。予め、大まかな問題形式を知っておくだけでも、安心して受験でき、実力を発揮しやすくなる。

TOEIC Listening & Reading の出題形式は、下記の通りである。

Part 1 写真描写問題（6 問）

Part 2 応答問題（25 問）

Part 3 会話問題（39 問）

Part 4 説明文問題（30 問）

ここまでがリスニング セクション（約 45 分間、495 点満点）であり、以下が、リーディング セクション（75 分間、495 点満点）である。

Part 5 短文穴埋め問題（30 問）

Part 6 長文穴埋め問題（16 問）

Part 7 1つの文書 / 複数の文書（54 問）

以上の 200 問を、約 2 時間で解答する。問題の質・難易度は、公開 TOEIC も TOEIC IP も同等である。公開 TOEIC は、受験料が ¥5,725 であり、TOEIC 協会によって定められた会場にて、年 10 回行われる。

山口県内では、下関市立大学（下関市）、山口大学（山口市）、岩国短期大学（岩国市）の 3 か所が公開 TOEIC 会場となっている。ただし、この 3 会場がそれぞれ年 10 回試験を実施しているというわけではない。年間の実施スケジュールは、インターネット等で告知されるが、会場によって、実施する回とそうではない回があることがわかる。

公共の交通機関を利用する場合、山陽小野田市からは、どの会場で受験するにせよ、移動に時間を要す。しかも、交通費もかかる。先に示したように、公開 TOEIC は TOEIC IP に比べ、受験料がより高額である。あらゆる面で、学生にとっては、かなりの負担がかかると言える。

以上より、学内で受験できることは、本学の学生達にとって大変便利なことであると言える。ただし、就職希望先や進学先に提出するための資料としては、公開 TOEIC の成績表を求められることの方が多いことは知っておいた方がよい。実際に公開 TOEIC を受験する段になって、自分の希望通りの結果が得られるよう、学生には TOEIC IP を積極的に受験することを勧めている。また、TOEIC という試験に慣れるためにも、繰り返して受験することを勧めている。

2. 受験者数・平均点の推移

表 1 は、これまでに本学で行った TOEIC IP 実施日・受験者数・平均点を示したものである。TOEIC IP は、受験希望者が 10 名以上集まった場合のみ、実施が可能となる。受験希望者数が 10 名以上であっても、試験の際に欠席する者がいたため、実施回によっては、10 名を下回ることもあった。2010 年以前は、辛うじて実施可能人数に達したという回もある。2007 年に関しては、募集の際に実施可能人数を確保できず、実施することが叶わなかった。

2010 年以前の記録を見ると、2005 年度の受験者数が突出して多いことがわかる。このように多数の受験生を集めることができた理由の 1 つとして、この年度まで、常勤の英語教員が複数名在籍していたことが挙げられる。複数の教員で協力して、受験希望者募集のアナウンスを効果的に行うことが可能であったし、模擬試験を実施する等、学生のサポート体制を充実させることができた。

表1 実施回毎のTOEIC IP 結果

実施年度	実施月日	受験者数	平均点
2005	12.11	55	300
2006	12.09	27	324
2007	実施せず		
2008	12.09	9	283
2009	06.20	11	333
	10.17	10	289
	12.24	12	307
2010	06.05	10	336
	10.16	16	315
	12.18	10	299
2011	05.28	19	295
	07.02	12	300
	01.21	17	305
2012	06.09	35	278
	09.29	31	289
	11.17	19	320
2013	06.01	34	313
	07.27	7	331
	11.30	52	310
2014	05.31	29	317
	09.20	20	304
	11.08	23	364
2015	05.30	39	323
	10.10	18	367
	12.12	22	344
2016	06.11	65	337
	10.09	27	349
	11.27	16	323
2017	06.04	35	357
	10.29	39	345
	12.17	24	387

年に3回、試験の実施を予定しているが、この目標が達成できるようになったのも、ようやく2009年度からである。この時期から、徐々にTOEICが社会的に注目され始めてきた。これ以降、TOEICの得点を社員採用・昇進の基準の1つとする企業や、入試の際にTOEICの得点を採用する大学院が多くなった。本学における常勤の英語教員数は減少したが、今度は時代の風潮が、学生のTOEIC受験を促し始めた。

同じ年度でも、時期によって受験者数にばらつきが認められる。この理由としては、中間テストを含め、考査の時期との関連が挙げられる。考査中はもちろん、考査の前後は受験者数が少ないようである。学生達が、受験しやすい時期も考慮した上で、実施日を設

定する必要があると言える。

次に、表2で本学における、年度毎のTOEIC IP受験者のべ人数と平均点、および「2017年度 山口東京理科大学 FACT BOOK (入試データ編)」¹⁾に掲載されている、毎年5月1日現在(ただし2015年度は4月1日現在)の入学人数を示す。2011年から2012年のTOEIC IP受験者数の伸びは著しく、2012年以降は毎年度、受験者数を50名以上確保している。また、平均点も2013年以降は上昇している傾向が認められる。この動向は、TOEICを取り巻く社会の動きに対応している。

2015年は本学公立化への過渡期で、私立型入試と公立型入試の両方を行ったため、例外的に入学人数が多かったが、それ以降は、工学部の定員200名を安定的に充足している。表2を見ても、2015年頃から、平均点の伸びが大きくなっていることは明らかである。この頃から、英語力の高い学生が徐々に増加しているようである。多数の入学志願者がいる中で、入試の関門をくぐり抜けてきた者達であるがゆえ、概ね基礎力をしっかり身につけているのだと考えられる。

表2 年度毎のTOEIC IP 実施結果と入学人数

実施年度	受験者数	平均点	入学人数
2005	55	300	182
2006	27	324	107
2007	実施せず		88
2008	9	283	111
2009	33	310	125
2010	36	317	148
2011	48	300	163
2012	85	296	200
2013	93	318	189
2014	72	328	164
2015	79	345	364
2016	108	336	221
2017	98	363	205

3. 学外の動向

TOEIC協会が2016年度の受験者数と平均点を公表したTOEIC Program DATA & ANALYSIS 2017²⁾によると、各年度の公開TOEICとTOEIC IPを合わせた受験者数は、図1に示す通りである。この図を見ても明らかであるように、2010年から2011年にかけて、受験者数が激増している。この頃から、就職にしろ、進学にしろ、TOEIC得点を問われることが多

くなってきたからである。TOEIC 協会が発行する小冊子「TOEIC PROGRAM GUIDE 2017」³⁾によると、TOEIC Listening & Reading を採用する企業・団体数は、現在約2,410にのぼり、その6割がTOEICの得点を社員採用時の参考にしているとのことである。

入試科目の英語の得点として、TOEIC得点を利用する大学院も徐々に増えている。また、TOEIC対策の授業を行う大学等も増えた。



図1 年度毎の全国 TOEIC 受験者数

表2で示した通り、本学でも TOEIC IP 受験者数が2012年以降はかなり増加しており、学生達が社会の動きを意識していることが伺える。

TOEIC Program DATA & ANALYSIS 2017によると、全国の4年制大学の学生の TOEIC 平均点は、444点とのことである。分野別で示すと、理・工・農学系学生の平均点は426点とのことだ。2017年の本学の平均点が363点なので、単純に考えても、全国の理・工・農学系学生の平均点よりも、50点以上下回っている。受験者数が増加してきたことは喜ばしいことであるものの、次は、得点を伸ばしていくことが、本学学生及び英語担当教員にとっての大きな課題である。

4. リピーターと高得点取得者事例

表1で示した通り、2005～2008年度にかけては、年1回のペースでしか試験を実施できなかったが、2009年度以降は毎年度、年3回ペースで実施している。それぞれの年度内に複数回受験した学生数は、図2の通りである。本学が2016年に公立化し、これ以降、勉学意欲のより高い学生が増加している傾向にあるのではないかと推測できる。

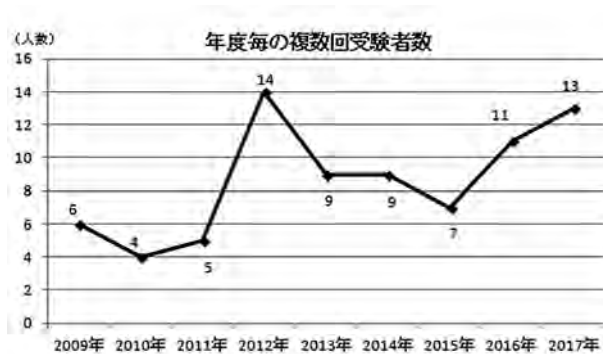


図2 同一年度内に複数回受験した学生数

また、この図で注目すべき点として、2012年度の複数回受験者数の多さが挙げられる。この年度のリピーター数が他年度よりも多い原因として、以下の3点が考えられる。

- (1) 所属する研究室の教員より、受験の勧めがあった。
- (2) 上記研究室所属の卒研生同士の仲が良く、切磋琢磨して研究に取り組んでおり、TOEIC受験にも積極的であった。
- (3) 上記研究室の学生達と仲の良い、他研究室の学生達も触発されて受験した。

以上の3つの要因それぞれがうまく絡み合い、良い循環を生み出したと言える。英語教員よりも、理系教員が学生に英語学習を勧めた方が、効果的であるように思える場合もある。「英語を専門としている人以外が勧める」ということ自体に大きなインパクトがある。英語を身につけることを必要としているのは、英語を専門としている人のみではないという事実が伝わるからである。実際に、理系分野では、学会や論文も世界に向けたものが多く、英語運用頻度も高いため、理系教員は学生達に英語を学ぶことの重要性を、より説得力をもって伝えることができるはずである。また、研究室の先生の影響は、卒研生達にとっては大変大きなものである。学生の英語力向上を望むのであれば、各先生方からお力添え頂くことで、より大きな成果が期待できると考えられる。

応援の一言を贈るだけでも、学生のやる気を刺激することは可能である。実際に、地道な努力を積み重ねるという行動に移る者の数は多くはないかもしれないが、学生へ声を掛け続けることは大切である。特に質問するというわけではないにもかかわらず、自分の勉強方法について語ったり、賛同を求めたりするために、わざわざ研究室まで訪ねて来る学生達もいる。恐らく教員から頑張りを認めてもらい、後押ししてもら

いたがっているのではないと思われる。

必修の英語授業の際、担当教員が TOEIC 受験を必ず勧めるが、実際は、学生への伝達事項がうまく行き届いていないことも多い。授業の対象は、1・2年生の学生であり、本来ならば学部生の半数に周知できると喜ぶべきであろうが、実情はそうではない。担当教員の半数が非常勤であるため、どうしても学生への説明が、一度限りの事務的な連絡のみにとどまりがちであるからだ。学内に常時在籍する英語教員がいることも、学生のサポート体制の充実のためには必要な条件である。学生の動機付けには、少なからず教員による支援が必要である。

かなり特殊な例ではあるが、ここで、2017年春に卒業したA君の事例を紹介してみたい。A君は1年次から3年次まで、毎回 TOEIC IP を受験した。更に公開 TOEIC も積極的に受験している。TOEIC IP の得点の推移は、図3に示す通りである。図の西暦の後に示された（ ）内の数字は、その年度の TOEIC 実施回を表す。「2013年（1）」は「2013年度の第1回目 TOEIC IP 実施日」即ち、「2013年6月1日」を示す。（実施日の詳細は表1に記載）

一般的に、600点取得後は、徐々に点数が伸びにく

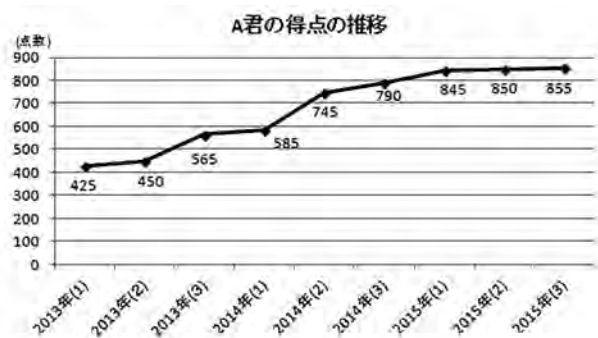


図3 A君の得点状況

くなると言われている。また、短期間で400点以上の点数の伸びを記録するという事は極めて希である。因みにA君は、4年次は専ら公開 TOEIC を受験しており、最終的には885点を獲得している。

A君が TOEIC 対策問題集を解く以外に、3・4年次にかけての2年間に達成した勉強量の一例を以下に示す。

- ・レベル別小説（TOEIC 730点レベル程度）を大量に読破。読んだ本の厚さは30～40cmにのぼる。
- ・ペーパーバック小説を3冊読破。
- ・洋楽やネットの英語アニメを毎日視聴。

・「工業英検ハンドブック」（工業英検協会発行）の500例文を暗記。

上記は、こちらが知り得ただけの分量であるが、それ以上の量をこなしていることは大いに有り得る。A君は目標得点を定めてこつこつ勉強し、受験に臨んだとのことである。A君曰く、TOEICで得点できない人は、「日常的に、読む量が少な過ぎる」ことが理由として挙げられる。A君の指摘は、的を射ている。なぜならば、TOEICは問題の分量がかなり多いため、スピーディーに読みこなせる能力を磨いていなければ、高得点は見込めないからだ。

在学生の中には、A君のスタート地点の得点を既に獲得している者が多くいる。したがって、在学生達も努力次第で、更に得点できる可能性は大いにあるはずだ。

5. 本学公立化前・後の受験者数と平均点の比較

本学が2016年に公立大学となって以来、まだ日は浅いが、公立化前に入学した学生と、公立化後に入学した学生の TOEIC IP 受験者数と平均点の比較を、図4と図5で示す。なお、表の西暦の横に記載された（ ）内の数字に関しては、図3と同様の表示方法を採用している。

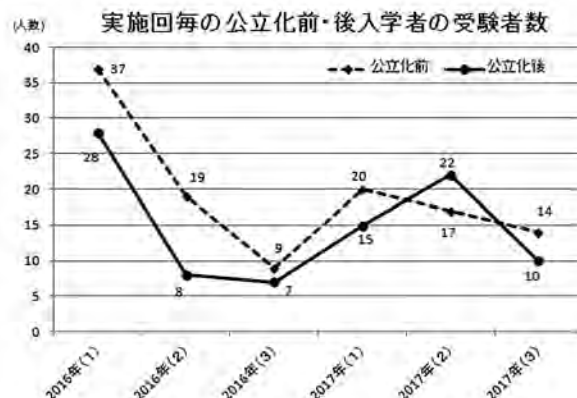


図4 公立化前・後入学者の受験者数比較



図5 公立化前・後入学者の平均点比較

受験者数においては、概して公立化前に入学した学生の方が多いと言える。理由としては、高学年の方がより就職・進学を意識するため、受験の必要性をより強く認識していることが考えられる。平均点に関しては、実施時によってばらつきがあるものの、公立化後に入学した学生の方が良い成績をおさめている傾向にある。しかも、平均点の差がかなり大きい場合も認められる。

入学志願者数が多く、新入生数を安定して確保できている際には、そうではない場合に比べ、TOEIC得点が高いことが考えられる。TOEICは、運営する法人名をみても明らかであるように、ビジネスのための英語力を問う試験である。高校卒業時まで培った、しっかりとした英語力の上に、更に勉強を積み重ねて臨むテストである。基礎力がおぼつかない場合は、かなりの努力が必要ということになる。

因みに、公立化前・後入学別の実施回毎の標準偏差は表3に示す通りである。

表3 公立化前・後入学別の標準偏差

年度 (実施回)	公立化前		公立化後	
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
2016 (1)	324	71.4	353	69.8
2016 (2)	358	84.2	329	43.8
2016 (3)	285	59.4	371	66.2
2017 (1)	336	91.4	385	54.5
2017 (2)	348	113.9	345	83.1
2017 (3)	378	115.7	387	103.1

6. まとめ

TOEICは、あくまでも数ある英語テストの内の1つである。学生にTOEICで良い成績をおさめてもらうことのみが、英語教育を行う目的ではない。更に英語力を高めること・英語を学び続けることが大切なのであるが、TOEIC受験はこのきっかけとなり得る。

TOEIC協会から送付された成績表を手渡す際に、大体の学生が反省点や次の目標を述べてくれる。中には、お薦めの勉強法を尋ねてくる学生もいる。客観的な点数が示されるため、次の目標を設定し易いし、モ

チベーションを保つことにもつながる。獲得した得点を確認し、喜びの表情を浮かべる者・がっかり悔しそうな顔をする者等様々である。TOEICは学生自身のレベルチェックの機能を大いに果たしてくれていると言える。A君の場合にも認められた状況であるが、希望通りの得点が取れた学生は、受験すること自体が楽しみとなってくようで、学ぶことへの積極性が増す傾向にある。

英語を学習すること自体はさておき、英語を話せるようになりたい、海外へ行ってみたいという学生の数は、本学が公立化する以前も以後もかなり多い。また、英語を運用する能力を身につけることは大切であると認識している学生は、大多数にのぼる。英語の授業の際に、最近よく目にするようになったものがある。学生の机の上に置かれた参考書類である。学生達は、確かめたい事柄を、即座にチェックできるように手元に置いているようである。モチベーションの高い学生が、増加しつつあると感ずることが出来る場面である。この機をとらえ、学生の英語力向上のために、更なる支援の工夫を施したいと考える。

TOEICが最も優れたテストであるというわけでは決してないだろうが、現時点において、世の中で大いに重宝されていることは否定できない。実際に学生達が、就職先・進学先で関わらざるを得ない状況に遭遇する可能性も大である。自身の英語力の向上のために、そして将来のために、TOEICは活用した方が賢明であると言えそうだ。

参考資料

1. 山陽小野田市立山口東京理科大学 教務課入試係：*2017年度 山口東京理科大学FACT BOOK (入試データ編)*, 2017年, p.62
2. 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会：TOEIC Program DATA & ANALYSIS 2017, 2017年, http://www.iibc-global.org/library/default/toEIC/official_data/pdf/DAA.pdf
3. 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会：*TOEIC PROGRAM GUIDE 2017*, 2017年, p.3